

修道中学校入学試験 概要

I 2026 年度入試結果概要

1 受験者数・合格者数

	2026 年度	2025 年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度
募集定員	276 名	276 名	276 名	276 名	276 名
志願者数	850 名	848 名	884 名	895 名	872 名
受験者数	840 名	831 名	869 名	873 名	839 名
合格者数	533 名	536 名	533 名	534 名	532 名
補 欠	58 名	60 名	72 名	75 名	86 名

※「補欠」については、3 段階に分けた順位をお知らせしています。

2 テスト教科・時間・配点・受験者平均点・合格最低点(総点)・合格者平均点(総点)

教 科	国 語	算 数	理 科	社 会	総 点
時間(分)	50	50	40	40	
配 点	125	125	100	100	450
2026 平均点	99.2	81.1	70.2	65.6	316.1
2025 平均点	85	74.6	61.6	51.8	273.1
2024 平均点	55.7	71.5	51.2	65.5	243.8
2023 平均点	90.9	79.6	46.5	59.9	348.2
2022 平均点	83.4	74.9	71	52.2	354.6

	合格最低点(総点)	合格者平均点(総点)
2026 年度	3 0 5 点	3 5 2 . 5 点
2025 年度	2 5 9 点	3 0 7 . 7 点
2024 年度	2 3 0 点	2 7 9 . 7 点
2023 年度	3 3 7 点	3 8 8 . 1 点
2022 年度	3 4 2 点	3 9 4 . 4 点

(* 合格発表段階の点数 * 2023 年度入試までは C.T. の 100 点を含む)

II 2026 年度入試結果分析

1 入試結果について

今年度の入試は、昨年と比べてすべての教科の平均点が上がりました。

2 志願者数について

昨年より 2 名増加し 850 名の志願者がありました。

3 合格者数について

合格者は 533 名で、ほぼ昨年どおりです。このところ成績上位者の入学率が上がってきています。今後とも、一人でも多くの志願者に本校を選んでいただけるように努力していきたいと思っております。

4 補欠者数について

補欠者数は 58 名です。補欠者には成績により 3 段階に分けた順位をお知らせしています。今年度入試では、「補欠 1 位～15 位段階」、「補欠 23 位～37 位段階」、「補欠 43 位～54 位段階」の 3 段階にわけています。本校では、合格者からの入学予定者数が定員に満たない場合、補欠者を成績順に繰り上げ合格の候補者とし、その中で入学の意志がある方を合格としています。補欠からの合格者数は年度によって変動があります。2024 年度は 36 名、2025 年度は 21 名が最終的に繰り上げ合格となっています。

Ⅲ 講評(科目ごと)

* 国語

・受験生の出来は？

今回の国語の出来は、全体を通して非常にみなさん健闘していました。全ての大問が 8 割台でしたので、受験に備えて皆さんが真剣に努力を続けていたことがうかがえます。

・問題の難易度・特徴は？

■大問一「漢字のよみ」と「漢字の書き取り」【標準】

今回の漢字の書き取りは、決して簡単なものではありませんでしたが、ほとんどが 9 割以上の正答率でした。「門松」が約 6 割でしたが、なじみのない言葉だったのかもしれません。「保証」はよく間違える漢字で正答率は 4 割でした。誤答は「補償」や「保障」がほとんどでした。

書き取りの留意点について

⑥「降る」→「こざとへん」が「ふしづくり」に見えたり、「つくり」の上部が「のぶん」に見えたり「つくり」の下部を貫く縦画が上に突き出ていないものが散見されました。

⑦⑧「率いる」「納める」→「糸の上の部分（いとがしら）」の画数が正しくない【英語の筆記体の小文字の E のようになっているもの】ものが散見されました。

⑨「心臓」→「にくづき」と「くさかんむり」の位置関係がおかしいものが散見されました。

⑩「豊富」→「豊臣」という解答が散見されました。

⑪「忠実」→非常によく出来ていました。

⑫「専念」→「専」の上部を貫く縦画が、「十」と「田」に分かれているものや「今」が「令」になっているものが散見されました。

⑬「保証」→「保障」「補償」という誤答が目立ちました。

⑭「拝見」→「拝」のつくりの横画を 3 本にしがちな字でしたが、予想以上に書けていました。

⑮「門松」→「角松」と書いているものが散見されました。

■大問二

齋藤孝の「自問力」についての説明文でした。出題箇所は「自問をすることで本質をつかみ深く考える力が身につく」という部分で、ほとんどの受験生が内容を正確に理解できているようでした。

問二（３）の抜き出し問題で、字数をかなりオーバーして失点している受験生が散見されました。「字数制限」を見落とさないよう、気をつけましょう。

問二（４）の記述問題で「三つめの例で」という条件があるのに、別の例で解答している受験生が散見されました。また、状況に合わせた具体的な解答となっていないものも散見された。この問題を得点するポイントは以下の 2 つです。

①設問文を正しく理解する。②前後の文脈との整合性を意識した上で、要求に応じた説明をする。

■大問三

瀧羽麻子の「自認と他者評価のずれ」についての物語文でした。出題箇所は「自分の振るまいに対する周囲の批判的な視線に心を痛める小学二年生の男の子と主人公とのふれあい」という部分で、ほとんどの受験生が内容を正確に理解出来ているようでした。

問三の記述問題で、「誰の」という部分を答えられていない受験生が比較的多かったです。主語と述語と修飾語が正しく用いられていない解答も散見されました。

問五のポイントは「①女子はかわいいものを好んでもよい」のに「②男子がかわいいものを好むと批判される」ことを「③うらやむヒナタ」ですが、「③」の部分まで触れられていない解答が多く見られました。

問七のポイントは「①かわいいものを見て何も感じない人もいる」が、「②世の中にたくさんあるかわいいものを見てうれしい気持ちになれる方が幸せではないか」ですが、全ての要素をおさえているにもかかわらず、論理的なつながりを欠いているために減点をされる受験生が多く見られました。

・採点上の気づき・受験生への要望・可否のカギは？

漢字や語彙などの基礎力は高いと感じました。反面、内容は理解出来ていると思われませんが、記述の際に「論理的整合性を欠いたもの」や「主述や修飾語の扱いが間違っているため正確な文章として成立していないもの」が多く見られました。

同音異義語はおさえておくといでしょう。本年度の漢字の書き取りは、例年に比べて非常に丁寧な字の解答が多かったのですが、なかには判別不能な字のせいで、知っている漢字や語彙を失点する例がありました。

読書をしましょう。「スマホ」や「SNS」や「生成 AI」の普及で深くものごとを考えることの出来る若者が減少しています。長い文章を日頃から読むことで、「深くものごとを考える力」が身につきます。

また、「正しい文章」「相手に適切に伝わる文章」を書く練習をしましょう。自宅で、夕ご飯の時間などに「今日学校で国語の時間に習ったこと」などを上手に説明できれば最高です。

・問題解説

大問一 漢字の読みと書き取り 基本的な語彙力を問う問題

大問二 説明文 本文に提示された三つの例を踏まえて、主に共通項を見だし、筆者の主張を押さえる。

大問三 小説 主人公の高校生の女の子が小学2年生の男の子とふれあう中で、主人公のおばあさんのあたたかい言葉に触れながら既存の価値観に左右されたくない男の子の気持ちを、読み解いていく。

* 社会

・受験生の出来は？

今年度の平均点は65.6点で、昨年度の51.8点から15点近く上昇しました。ただ、大問ごとの得点率を見てみると、大問1（地理）71%、大問2（歴史）73.8%、大問3（公民）49.8%となっており、大問3の得点率の低さが目立ちました。

・問題の難易度・特徴は？

例年通りの難易度の問題ではありましたが、以前と比較して問題のページ数が多くなりました。これは、特に大問2の歴史分野で問題を読む量が増えたことも影響しているのですが、問題全体を把握しないまま解いていって時間が足りず、すべて解ききることができなかった受験生もいたようです。

・採点上の気づき・受験生への要望・可否のカギは？

基本的なレベルの用語についてはきちんと漢字で書けるようになることが合格につながります。これに加えて、問題文に出てきている語句であっても正確に書き写すことができること、文脈をきちんと読みとること、何を問われているかを手順を踏んで理解することも大切です。まずは、正しく丁寧な字で解答することを身につけてもらいたいものです。

社会科で高得点を獲得する鍵のひとつとして、世の中の出来事・動きに高い関心を持続けることが挙げられます。新聞等さまざまなメディアのニュースに日常的に触れることに努めましょう。

・問題解説

大問 1（地理）日本の自然環境や産業を題材に、地域ごとの特色や自然災害や防災の知識についての理解度を問いました。

大問 2（歴史）日本の文化財についての探究学習を題材にして、原始から現代までの歴史の理解度を多角的に問いました。

大問 3（公民）「失われた 30 年」という言葉をもとに作成した年表を題材に、時事問題も含めて現代社会の様々な出来事や問題の理解度を問いました。

＊理科

・受験生の出来は？

第 1 問 「天気の変化」についての出題でした。基本的な知識を問う問 1・問 2 はよくできていましたが、やや発展的な思考力が求められる問 5 では、苦戦している受験生が多かったようです。

第 2 問 生物のからだのはたらきに関する基本的知識を問いましたが、全体的によくできていました。

第 3 問 「もののとけ方」についての出題でした。問 1・問 2 に比べて、問 3(2)～(5)の計算問題の正答率が低かったです。

物理分野の問題のうち、第 4 問（振り子の問題）は出来がよかったのですが、その一方で第 5 問（浮力の問題）は苦戦した受験生が多かったようです。

・問題の難易度・特徴は？

受験生全体の平均点は昨年よりも約 9 点上がり、易化したといえます（61.6→70.2）。

第 1 問 問 5 以外は、教科書にある基本～標準レベルの問題でした。

第 2 問 問 8 呼吸・光合成と二酸化炭素の関係を会話文やグラフから読み取る問題でしたが、苦戦している受験生が多かったようです。

第 3 問 問 3（計算問題） 計算自体は平易なものでしたが、問題文に与えられている「溶解度」や「飽和水溶液」の意味を正確に把握するのがやや難しかったようです。

第 4 問 多くが知識問題であり、受験生も十分に練習を積んでいたと思われます。

第 5 問 問 3、問 4 与えられた問題文から条件を抽出し、浮力に関して知識を整理して解いていく問題です。このような問題を確実に正解できる受験生には、ぜひ入学してほしいと願っています。

・採点上の気づき・受験生への要望・可否のカギは？

第 1 問の問 2(2)のような記述問題では、要点を簡潔に示す力が求められます。

正確に漢字を覚えましょう。漢字間違いの例：「液」のさんずいが、なべぶたの中に入っている。「管」を、「菅」や「官」と書いてしまう。

「小数第 1 位を四捨五入して整数で」のような指示がある場合は、それに沿った解答を書きましょう。

第 4 問の問 2 の①と②の解答欄を間違えて解答している受験生が散見されました。

身近な自然現象や天気予報などに関心を持ち、科学的な視点から考える習慣をつけてほしいと思います。

教科書にある基本的知識をしっかりと理解するとともに、実験結果から考察を進める力を養いましょう。

基本的な比例計算や、グラフの読み取りがきちんとできるようになることは、理科の学習においてとても重要です。

・問題解説

大問 1（地学）「天気の変化」を題材として、身近な自然現象に関心を持ち、科学的な視点から考えることができるかどうかを問いました。

大問 2（生物）植物・人が生きていくために、からだに取り込んで排出する物質のながれに関して基本的な知識を試しました。

大問 3（化学）「もののとけ方・水溶液」を題材として、水溶液の性質についての理解ができているか、溶解度に関連した計算が正しくできるかを問いました。

大問4（物理：振り子）振り子の運動の様子を的確に理解しているか、与えられたデータを読み取り推察することができるかを問いました。

大問5（物理：浮力）現象を的確に把握し、与えられた物理法則を適用して分析することができるかを問いました。

* 算数

・受験生の出来は？

今年度の平均点は81.1点(64.9%)で、昨年度の74.6点(59.7%)と比べてやや上昇しました。標準偏差は22.3となり、昨年度の22.0とほぼ同程度で、得点のばらつきは例年並みであったと考えられます。

得点分布全体としては、昨年度よりも山が右側に寄り、平均点が上昇する形となりました。また、100点以上の得点者は約190名と、昨年度の135名を上回りました。

これらの結果から、難易度は例年と比べてやや取り組みやすかった可能性があります。一方で、大問5など得点率の低い問題も見られ、基本的な問題を正確に解き切ることが合否に影響した入試であったと考えられます。

・問題の難易度・特徴は？

大問1 計算問題→正答率は84.3%と高く、基本的な計算力は多くの受験生に身につけていることがうかがえました。

大問2 小問集合（文章題）→正答率が60.1%となり、文章を読み取り、状況を整理して考える力の差がここで表れたようです。

大問3 図形問題→(1)(2)(3)の正答率がいずれも50%台となり、図形の条件を正確に捉え、処理する力にやや課題が見られました。

大問4 (1)(2)の正答率が70%を超えており比較的取り組みやすい内容でしたが、状況の変化をより丁寧に整理する必要のある(3)では正答率が50.2%となりました。

大問5 難度の高い問題→(1)の正答率は約10%と低くなりましたが、図を用いて考え、粘り強く取り組む姿勢が求められる問題でした。

・採点上の気づき・受験生への要望・合否のカギは？

分数の表記について問題文で指示がある場合は、その指示に必ず従う必要があります。採点においては、指示どおりに表記されているかどうかを重視しました。また、数字の書き方が不明瞭で、判別が難しい解答も一部見受けられました。丁寧に数字を書くことは、正確な評価につながる大切な要素です。問題文を丁寧に読み、条件や状況を整理しながら考えることを大切にしてください。計算や答えの正確さはもちろんですが、途中式や図を用いて考えの流れを整理することが、結果につながります。また、分数の表記など、問題文の指示に注意を払うことも重要です。

今年度の入試では、基本的な問題を確実に解き切る力と、難しい問題にも粘り強く向き合う姿勢の両方が求められました。試行錯誤しながら考え続ける姿勢は、算数だけでなく、今後の学びにおいても大きな力になります。

今回の入試で得た経験や手応えを大切に、次の学びへとつなげてください。皆さんのこれからの成長を期待しています。

・問題解説

大問1（計算問題）計算式の構造や特徴をとらえ、どのように整理・工夫して処理できるかを問いました。正確さだけでなく、途中式の工夫や整理の仕方を評価する問題です。

大問2 小問集合（文章題）文章の内容を丁寧に読み取り、状況を自分で整理したうえで、基本的な算数の考え方を使って解く力を問いました。特に（8）は、規則性の発見に粘り強く取り組む姿勢や、順序立てて整理する力が求められる問題です。

大問3 小問集合（図形問題）三角形・正方形・六角形・立方体・角柱など、入試で典型となる図形を題材に、長さ・角度・面積・体積に関する基本的な内容を、しっかり処理する力が身につけているかを評価しています。

大問4 登校時の移動を題材に、速さ・時間・距離の関係を整理し、その状況をグラフからも読み取る力を問いました。実生活と結びついた題材から「状況変化」をしっかり整理できているかについて評価しています。

大問5 図形の特徴を的確にとらえ「直線上を転がる様子」を自分で図に表現しながら考える問題です。図形が通過する部分の面積を求めるため、観察力・イメージ力・論理的な思考力を総合的に問いました。